

地区防災計画

住民が協力して人命や財産を守るために、地域が自発的に策定する「地区防災計画」。モデル地区として同計画を策定した上祇川町内会に話を伺いました。

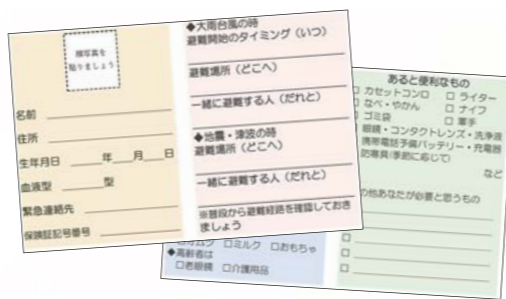


計画の中で、避難誘導や補給などの役割ごとに班を編成し組織することで、実際に災害に遭った際の行動を素早く行うことができます。また、市が発行する防災マップとは異なる「地区防災マップ」

上祇川町はがけ地や河川がありながら指定避難所が近くにないなど、災害に弱い土地柄で高齢者も多く地域の人は災害への不安を抱えていました。そういった中で、鹿児島県内の地区防災計画モデル地区の募集があり、みんなで話し合いモデル地区へ応募しました。専門家の助言をもらいながら5回の会議を実施。避難場所の確保や危険箇所の把握、避難に支援が必要な住民を地域で助け合う仕組みづくりなど、地域企業の協力も得ながら今年2月に計画が完成しました。



▲上祇川地区独自の防災マップ



▲個人や避難情報を記載する「避難カード」。これを基に各班長が避難時の要支援者リストを作成する

を作成。これは、公的施設やがけ崩れ等の危険区域だけではなく、災害時に役立つ広場や過去に浸水などの被害があった場所を書き込むことで地域特性に合った地図となっています。今後は、地区防災マップに住宅情報を追記するなどの内容強化を図りながら計画をさらに磨き上げていきたいです。地域が積極的に防災に取り組み、地元を守る。これからも住民主体で災害に備えていきます。



上祇川町内会 小林 宗生 会長

『地区防災計画』をつくりませんか？



市安全安心課 横山 太 防災専門指導員

近年、台風や大雨による自然災害が多発しており、今後発生が危惧されている南海トラフ地震等の大規模広域災害に備えて地域コミュニティなどの助け合い(共助)による防災活動を強化する必要があります。

「地区防災計画」に地域特性を組み込んだ避難計画や地域企業との協力体制を構築することで、災害への備えをさらに強化することができます。地区防災計画の整備は義務ではありませんが、計画をみんなで作り上げていくことによって地域の結束や活性化にもつながっていきます。市では作成支援などの相談も受け付けています。まずはできることから始めてみませんか。

問 市安全安心課 ☎ 0994-31-1124

災害ボランティア

被災地が日常を取り戻すために活動する災害ボランティア。その活動を紹介します。

私たちが「大隅災害復旧ボランティア」は、平成27年に垂水市を襲った台風16号で被災した人々を支援するために有志で結成した団体です。現在約800人が登録しており、主に大隅半島や県内を中心に活動していますが、要請があった場合には県外へボランティアに赴くこともあります。また、平時には全国各地で開催される災害復旧セミナーや研修会などに参加。重機の使い方といった実務やボランティア保険の事務関係の知識を身に付けています。

「だるうか」と困っている方のことをよく耳にしますが、被災したら判断に迷わず我々に連絡してください。メンバーには他県の大規模災害でのボランティア経験者や消防・自衛隊員なども所属しております。何らかのお力になれると思います。被害に遭ったときは何をどうしたらいいのか右往左往してしまふもの。私たちは災害復旧だけではなく、そのような人々に対しての相談も受け付けています。防災・減災を意識し準備をしても、助けが必要な場合が多いと思います。災害に遭ったらずは相談してください。



おすみ災害復旧ボランティア 小野田 賢造 代表理事



フェイスブック「おすみ災害復旧ボランティア」で災害情報やボランティア募集を見ることができます



令和2年7月豪雨 古江町復旧活動



令和2年7月豪雨 熊本県珠磨村復旧活動



重機操作研修



町内会の防災会議へ参加

災害に対する備えをしても、いざ被災すると自分や家族の力だけでは復旧は困難。地域住民との連携などといった「共助」によって協力し助け合うことで、災害への備えはさらに強固なものになります。